

6. 8 大学図書館における情報リテラシー教育の実際

京都大学附属図書館情報サービス課長

瀧上光明

1 はじめに

京都大学では、平成10年度から情報リテラシー教育の一環として、全学共通科目「情報探索入門」を開講している。この「情報探索入門」は、附属図書館が科目提供部局となり、複数の学部の教官が講義とそれに対応した演習を交互に行い、その演習の補助者として学内の図書館職員が協力して取り進めている。

2 背景

大学設置基準の大綱化、学内のマルチメディア・ネットワーク環境の整備及びインターネットの急速な発展等大学図書館を取り巻く環境が著しく高度化・多様化してきており、文献や情報が今までの図書や雑誌に加えて、ネットワーク上の資源やCD-ROMなどで多様に出現するなど、この種の情報の活用能力が大学での研究や学習の前提となってきた。

また、学術情報の流通形態が変化しつつある環境下での大学図書館の在り方については、平成8年7月文部大臣諮問機関である学術審議会の建議「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」に記述されており、この中で、電子的情報資料の有効利用を含めた情報リテラシー（情報利活用能力）教育、特に学生向けの利用者教育は、情報リテラシー教育の一環として、大学図書館の協力（支援）の下、全学的に取り組むことができるよう、教育体制の整備が必要であると指摘されている。

3 開講のための準備

(1) 組織の設置

(情報探索入門演習実行ワーキンググループ等)

(2) 講義内容の検討

(講義科目名、講義の目的、講義日程と内容、成績評価・単位数、開講期、対象学生・学年、講義教材、講義時間等)

(3) 演習内容の検討等

(分類、参考、目録、データベース及びインターネット等)

4 平成13年度の講義概要

(1) 科目名

「情報探索入門」－ 図書館とインターネット情報の活用 －
(Introduction to Information Retrieval)

(2) 目的

論文・レポートを書くための文献・情報収集、卒業論文作成のための文献調査時等に
必要な情報活用技術を演習によって習得させながら、図書館情報学、情報探索の概要
を学ばせることを目的としている。

(3) 開講期

前期(2単位)、講義は金曜日第5時限(16:30~18:00)

(4) 対象学生と定員

2~4回生の全学部学生を対象として、定員は220名である。

(5) 講義教材

○大学生と「情報の活用」：情報探索入門

(長尾真監修、川崎良孝編集、京都大学図書館情報学研究会発行、日本図書館協会発売)

○access.txt 文献調査・利用ガイド

(京都大学附属図書館編集・発行)

○その他プリント等

(6) 講義日程と内容

回	月 日	内 容 (標 題)	備 考
1	4月13日	大学図書館への招待	(講義)
2	4月20日	学問・研究・文献・情報	(講義)
3	4月27日	分類の一般概念と分類理論	(講義)
4	5月11日	同 上 ※1	(演習)
5	5月18日	目録情報とその利用	(講義)
6	5月25日	同 上 ※2	(演習)
7	6月 1日	参考資料の種々とその利用	(講義)
8	6月 8日	同 上 ※3	(演習)
9	6月15日	同 上	(演習)
10	6月22日	インターネット情報及びデータベースとその活用法	(講義)
11	6月29日	インターネットの活用法 ※4	(演習)
12	7月 6日	データベースの活用法 ※5	(演習)
13	7月13日	図書館情報及び図書館の種類とその機能	(講義)

(演習概要)

- ※1 分類の一般概念と分類理論では、クラスター分析を応用した3次元情報検索システムで岩波新書を検索し、その結果と通常の十進分類との違いを考察する等。
- ※2 目録情報とその利用では、京都大学 OPAC、NACSIS Webcat、英国図書館や議会図書館の OPAC を使用した検索等。
- ※3 参考資料の種々とその利用では、各自興味のあるテーマを設定し、附属図書館にある参考図書、カード目録及び CD-ROM 等を使用しての演習。
- ※4 インターネットの活用法では、提示するいくつかのテーマから興味のあるものを選び、インターネットから情報を収集しまとめる。Yahoo 等の検索サイト、Enjoy JOIS を使用。
- ※5 データベースの活用法では、NACSIS-IR を使用して、京都大学教官の専門業績等を調査する。

5 図書館の役割

附属図書館が全学共通科目「情報探索入門」の提供部局となり、事務窓口である情報サービス課参考調査掛で、演習補助者の人選、講義室・演習室の手配、その他連絡調整等すべてを行っている。

また、演習補助者については、京都大学の全学共通科目履修案内にも、「演習は図書館司書が協力する」と明記されており、学内の図書館職員15名がこれに当たっている。

今後とも、情報リテラシー教育については、学内の関連部局との連携を強化し、図書館が積極的な役割を果たしていくべきと考えている。

6 アンケート調査

講義終了後、学部・学年構成、講義・演習の内容及び演習補助者の人数等について、アンケート調査を実施している。

このアンケートは、講義全体を通しての受講者の感想・評価であり、適切な意見・要望等が得られている。

7 今後の課題等